

研究課題番号	4-1905
研究課題名	遺産価値向上に向けた知床半島における大型哺乳類の保全管理手法の開発
研究実施期間	令和元年度～令和3年度
研究機関名	東京農工大学
研究代表者名	宇野 裕之

1. 委員の指摘及び提言概要

ヒグマの大量出没メカニズムを科学的に解明し、被害リスクの低減に役立つ重要な知見が得られるなど目標を上回る研究成果をあげたと評価できる。かなり発展したヒグマ個体数推定手法が開発され、今後の技術開発に寄与できる。基本として正確な推定に基づいて厳密な管理を実施する方針に沿っている。ヒグマ食性の年次変動と大量出没要因の解明、エゾシカの個体群モデルの感度分析など、データに基づく科学的な知見が得られた。とくに IUCN から科学的根拠に基づく大型哺乳類の管理が求められる中、環境行政への貢献は大きなものがある。今後、気候変動などに伴う、この地域の生態系・生物多様性の変化についての有効なモニタリング手法の検討などもお願いしたい。

2. 採点結果

評価ランク：S